

航空部便り

主将として

3年 玉井 克典

をする気はない。現在の諸般の事情も、現役部員諸君の努力や、苦勞もよく理解出来ている。しかし乍ら、部員が、精神的にも、経済的にも負担を軽減されて新機体が手に入るようになった（ASK-13イオラスから ASK-23 アイオーンIIに至る）時代となるにつれ、同志社の実力が相対的に低下してしまった。

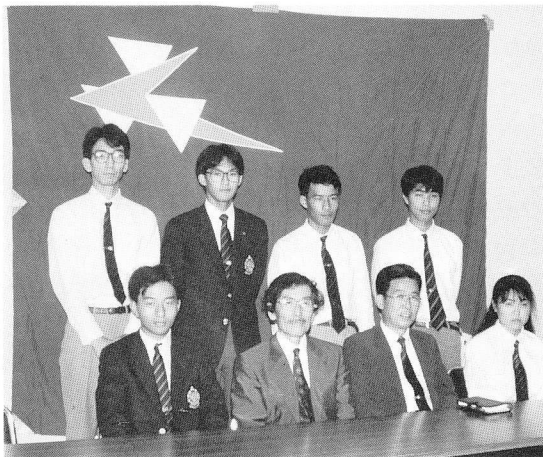
この妙に符合する2つの事実を、現実のこととして認識せざるを得ないと感じるのは、私だけであろうか。

(昭和39年卒)

幹部交替

山本(康) 松田 三田村 吉川

玉井 小野部長 窪田監督 青木



4月から少しずつ主将としての仕事をやらせていただいている。この半年間で感じたことがある。それは学生グライダーがけっして個人ではできないということである。合宿に入ればもちろん、主務や会計、あるいは学連と、裏で活動を支える努力があればこそ円滑な運営ができるのだ。また、トラックのメンテナンスや機体の耐検等も部員全員の協力によりなされている。このように部員個人個人が役割と責任を自覚して働くことでグライダーを飛ばすことができるのである。

もう一つ、関西において同志社大学航空部が恵まれていることも感じた。十分な広さの格納庫、トラック、複座機と2機の単座。どれほど他校の人からうらやまれていることか。そしてそれを維持するノウハウの蓄積。まさに先輩達の遺産である。これらの意義を、目に見える形にすること、それが今なすべきことであろう。

航空部として結果を出さねばならない時期にさしかかっていると思う。各自がクラブに対して求めているものは異なるだろう。しかし前に述べたようにそれぞれが役割と責任を果たしてこそ円滑な運営ができるのだ。

「翔友」が発行されるころには上級生の半数近くがライセンサーになっているだろう。教証候補も現在5名。これからが正念場だ。と決意も新たな今日このごろである。

平成2年度学生新役員

主将	玉井 克典	(法学部 3年)
主務	吉川 浩一	(法学部 3年)
O B	山本 武志	(工学部 3年)
会計	青木友里恵	(文学部 3年)

主将を退いて一言

4年 松田 剛

先日9月29日の幹部交代をもちまして、私は主将の役を退きました。私は主将として、昨年1年間を「強い同志社への布石」に当てたつもりですが、果たして現役の皆さんにはどのように映ったでしょうか。

ところで、「主将」という仮面も取れた所で、堅い話は後任の玉井君にお任せしまして、最上級生として一言。後輩の皆さん、全員がグライダーの面白さを知って下さい。まずは高度を獲得する面白さから、次に高度を距離に変える面白さ、そして高度を速度に変える面白さを。元来人間は絶対に1人では飛べません。グライダーも同じです。たとえゆっくり降りることはできても……。しかし、グライダーは「自然」というとてつもなく大きな力を利用して飛ぶことができます。初め「自然」は私達を拒みます。しかしそれを乗り越え、私達は何とも言えない征服感と共に空を飛ぶ事が出来るのです。この面白さを知ってしまったら、後はグライダーでそれを楽しむだけです。毎合宿みんなでそれを楽しめばよいのです。競技会でさえも……。

しかし、楽しい事をするにはそれ相応に、先ずやらねばならぬ事が有ります。では何をすればいいのか。それは、「主将」という仮面をつけた玉井君が教えてくれるでしょう。ですから皆さん、玉井君を絶対に見失わないように!!そして、それがもし出来たなら、数年後に同志社航空部は「強い同志社」と呼ばれていることでしょう。では玉井君、後は宜しく!!

新入部員の呟き

1年 佐武 百合

航空部に入部して6ヶ月。合宿も3度経験し、なんとかグライダーのことも飲みこめてきました。最近では、澄んだ秋の空を見ながら「今日は視程がいい」などと、生意気なことを考えることもできるようになったようです。近頃、ふと気が付くとグライダーのことを考えていることが多く、思っていたよりもグライダーのことが好きになっている自分に少々驚いています。

入学式の日、期待と不安に胸をふくらませながら校門をくぐり、最初に目についたのが真白なASK-23。それ以来どうもグライダーが気になりましたが、なんといっても航空部は体育会。ピアノを習っていたため、それまで部活に入ったことのない私にとって清水の舞台から飛び降りるような気持ちでの入部でした。始めは今まで触れたことのない世界に少し惑いましたが、合宿を重ねる度に、ランウェイで泥々になることも、機体の整備をすることも、好きになってきました。

操縦も、始めはもっとゆっくり景色を見ていたいなどと思っていましたが、だんだん操縦のおもしろさも分かってきました。いつもテンポがマイペースで自分でも困るのですが、スローでも確実に自らのものにしようと思います。確かに、この6ヶ月の間、これでいいのかと悩んだこともありましたが、今は気持ちの整理がついて、航空部に打ち込めそうな気がしています。次の合宿での課目アップを目指して、ファイト!

初ソロへの道

2年 三田村 宏 明

報告を終えた自分は、駆け足でグライダーへと向かった。機体は既にセットされ、後席も縛られている。初ソロ。この瞬間をどんなに待ち焦がれたことだろうか。——さて、行ってくるか——。いつも通りシートに身を沈め、いつも通りの点検。だが何か居心地が悪い。いつもとは違う緊張感、そして興奮が自分を支配していた。——落ち着いていつものフライトが出来るだろうか——。そんな不安が募る。まるで初フライトの時のような心境だ。

去年の7月28日、緊張と不安で訳もわからないうちに終わった初フライト。思えばあの日以来、決して平坦な道のりではなかった。2合宿目にして訪れた、忘れもしない9月の総撤収合宿。その後もうちの合宿は雨にたたられ、ほかにも参加していなかった自分は、たったの23発で1年を終えてしまった。更に2年になっても、教証参加によって福井での合宿が増えたこともあり、発数は伸び悩む一方であった。そこで、一念発起して臨んだ今年の夏。教証合宿を皮切りに、自家用合宿、同志社合宿と休む間もなく参加。しかしそこでも思うように発数が伸びず、同志社合宿を終えた時点で総発数66発。無理を言って阪大合宿にもひきつづき残らせていただくことになった。冷静に考えるとかなり無理な日程であり、実際体力的にも限界に近い状態だったが大きな目標が自分を支えてくれたと思う。そして今……。

風防を閉じると、今までの興奮がうそのようにいつも通りの自分に戻った。

358準備よし——

ライセンスを取得して

4年 松 田 剛

現役の皆さんは何故グライダーを選び、続けているのでしょうか。

私の場合、「青い空と真っ白な雲の中を、自由に飛んでみたい」と思ったからです。しかし実際のグライダーは、そんな世界とは無縁の緊張に支配された狭い箱でしかなかったのです。じわりじわりと下がる高度計とそれを助長する強風。殆ど話もした事のない教官と乗る緊張感。自転車に乗る程度の面白さは有りましたが、とても自由に空を飛ぶなんてものではありませんでした。単独飛行も、自転車の補助輪がとれた程度の喜びでしかなかったと思います。

ところが2年生の12月に私の転機はやって来ました。ASK-13の単独飛行で40m高度を獲得してしまったのです。離脱高度より上を指す高度計の針は、それまでにない感激を私にもたらしめました。そして、その2ヵ月後にKa-6Eで、私は一回りした高度計の長針と、1を指す短針（つまり1000mです。）を体験したのです。この時の感動はとても描き表せません。まるで笛の如くピロロロ……と鳴るオーディオとあからさまに体感できるリフトに私は頭をやられてしまいました。その時私は「青い空と真っ白な雲」を見ました。

それから1年半、私は「自由に」飛ぶ事を目指して頑張ってます。グライダーとはこんなに楽しいものだったのです。そして自家用ライセンスはこんな楽しい世界へのフリーパスです。現役の皆さん。御存じでしたか？あなたも、おひとついかがですか!?

クウ 空を掴む

白髪元監督

テルミックに入った時のあの壮快感は、グルグル廻った者でなければ分からない。

“ヤッター!!” 思わず叫びたくなる気持を押えて、どちらに廻ればセンターリング出来るかと体中を耳にして、テルミックのあのホアーッという音をさぐる。

面白い話がある。昔テルミックに入ったとき、左旋か、右旋かの判断をするために、両翼端に温度計をつけて、その左右の翼の温度差を見て、テルミックのセンター方向を判断したらどうだという考えがあったが、実現したかどうかは知らない。今なら敏感なセンサーが開発されているから、あるいは可能な話かも知れない。

またトンビが廻っているからといって、そこへ飛んで行っても仲々トンビと同じほど器用に小廻り出来ないグライダーは、大体においてテルミックに置いてきぼりを喰う。

私の数少ない経験だが、今までねていた煙突の煙が、急に真ッ直ぐ登り初めたのを見つけ、そこにネジこんでテルミックを掴えたことがある。

またある記録会で同じテルミックで旋回中、あとから入ってきた先輩機が、またたく間にセンターリングして私の内側をヒューッと追越して行ったのを、唯々あっけにと取られて見送ったが、機体の性能も違ったし、技量も数段上であったと思いながらも、心臓の方も何倍か強いお方と思はざるを得なかった。

学生と一緒に飛んでいた時、グリーンとリフトを感じそのまま廻り初めたら、雲の吸い上げにつながり、何回か廻っている内に雲の底に近づいて、まわりが薄暗くなり、少々突込んでもバリオは、(+)、しかたなくスポイラー全開でヤットそこを離脱したが、あとで考えると少々惜しい気もしない

ではなかった。しかしなにしろ、自分が旋回しようと思う方にバンクがつけられない程、強いリフトであったのを思うと、命あつてのモノダネと自分を納得させたものだ。

いずれにせよ、目に見えないテルミックをあの大空に求めて飛ぶグライダーが、たまたま掴えたテルミックをトコトン利用するためには、優れた技量もさることながら、適格な情況判断と、深い知識が必要である。

同じ上昇風でも斜面上昇風は、テルミックとは一寸趣を異にしている。斜面上昇風帯は、これに取りつくまでは大分苦勞するが、一度掴まえてしまえば、あとは唯直進しているだけで、大体エレヴェーターに乗ってるより静かに確実に上昇してくれる。風さえ吹いていれば、理屈では何時間でも飛んでいられることになる。

かつてグライダー界で滞空時間の長さを競い合う時代があつて、現に20数時間も飛んだことがあったが、もうこうなれば操縦技量もさることながら、精神力、体力の問題になってくる。殊に現在のグライダーのように戸締りの良いキャノピー式でなく、殆ど上半身を寒風に露出させて飛ぶグライダーや、さほど性能の良くないグライダーで十数時間も頑張り通した先駆者の苦勞に対しては、無条件で脱帽したい。

—— 主な滞空時間記録 ——

昭和11年1月	志鶴忠夫	9時間23分	生駒
昭和15年1月	吉川精一	10時間	生駒
昭和16年2月	河辺忠夫	13時間41分	登心
昭和28年2月	小田 勇	28時間08分	生駒

関西・東海学生グライダー競技会 松田 剛 V 達成

第15回同立戦

10月23日から福井空港で開催された競技会は29日その幕を閉じたが、我が同志社航空部からは、松田剛、松村康生、玉井克典、近藤玲の4選手が出場した。なかでも松田の健闘は目覚しく、出場全選手中、唯1人周回科目を達成し、高得点をマーク、個人優勝は勿論、団体優勝にも大きく貢献した。その結果、我が校は700点を獲得、2位阪大の94点、3位岐阜大の58点に大差をつけて圧勝した。

今回の優勝は7年振りのことであるが、この好成績を1つのステップとして次の同立戦、更には全国大会への大きな飛躍を期待したいものだ。

——10月29日晚、窪田監督から

優勝の連絡を聞いて——

競技会での主な成績は次の通りであった。

個人	団体
①松田 (同大)	①同志社大
②沢田 (阪大)	②阪大
③八木 (岐阜大)	③岐阜大
④河原 (大阪電大)	④南山大
⑤磯谷 (南山大)	⑤関学
⑥永井 (関学)	⑥愛知学院大

競技会を終えて

松 田 剛

大会4日目を終了して我が同志社は0点でした。「強い同志社への布石」を唱える手前、「このままでは……」と一種の焦りを感じつつ競技会の5日目を迎えました。

コースは空港-4.1K-本田福所-3.4K-安田-3.7K-空港の三角周回コースです。そしてワンチャンスを生かしての周回。本当に嬉しかったです。

関西、東海を征した余勢を駆って今回の同立戦に、10回大会以来の連続優勝を狙って張切って臨んだが、会期の前半は気象条件に恵まれず、両校とも滞空点を少しずつ貯金する程度が続いた。加えて4日目は終日雨。この日まで好調松田が唯1人周回コースを達成し立命に200点近い差をつけて圧倒していたが、最終日、立命もよく頑張り、松田を上まわる周回に成功、残念ながら、我が校はドタンバで逆転負けを喫した。

折角声援のためわざわざ会場まで駆けつけてくださった大勢のOBの諸兄には、まことに申し訳のない結果になったが、我々にとっても本当に悔の残る一戦であった。

1 総合成績

優勝	立命館	2272.8点
	同志社	670.2点
	(通算)	6勝5負4引き分け

2 個人成績

1部1位	中野幹生 (立)	2013点
2位	松田 剛 (同)	451点
3位	玉井克典 (同)	134点
4位	河村隆行 (立)	100点
5位	関 知雄 (立)	99点
6位	松村康生 (同)	23点
獲得高度賞	関 知雄 (立)	410m
滞空時間賞	松田 剛 (同)	35分
距離賞速度賞	中野幹生 (立)	

2部1位	三田村宏明 (同)	157点
2位	三好勝也 (立)	152点
3位	本多英雄 (立)	145点
4位	北田淳児 (同)	134点
5位	真沢綾子 (同)	124点
6位	増田 立 (立)	114点

航空部活動報告 (平成2年1月～8月)

平成2年

1月28日～2月2日	関学合宿・近藤(2年)	於：木曽川滑空場
2月3日	追出しコンパ	於：祇園百番
4日～8日	三整合宿・山本(3年) 吉川(2年) 三田村(1年) 山本康(3年) 合格	
2日～8日	立教合宿・中村(4年) 松村(3年) 繁永、玉井(2年)	
15日～20日	同志社合宿	於：木曽川滑空場
23日～28日	立教合宿・小馬、中村(4年) 松田(3年) 玉井(2年)	於：妻沼滑空場
3月1日～11日	全国学生グライダー選手権大会・小馬、中村(4年)	於：妻沼滑空場
18日～23日	関々対抗戦・山本(3年) AT ソロ	於：福井空港
28日～4月2日	三整合宿・山本(3年) 吉川(2年) 眞澤(1年)	於：木曽川滑空場
27日～4月2日	三整合宿・吉川(3年) 三田村(2年)	於：木曽川滑空場
4月5日～11日	新入生勧誘期間	於：田辺校地
5日～10日	ウインチマン合宿・玉井、近藤、重永(3年) 北岡(2年)	於：木曽川滑空場
11日～18日	自家用合宿・松田、松村(4年)	於：木曽川滑空場
19日～24日	同志社合宿 総飛行回数160回	於：木曽川滑空場
29日～5月3日	教証合宿・松田(4年) 玉井、重永(3年) 三田村(2年)	於：福井空港
5月2日～3日	グランドスクール(新人講習会) 1年生全員	於：大阪朝日新聞社
12日～16日	同志社合宿 総飛行回数62回	於：福井空港
5月26日	新人歓迎コンパ	於：丸山公園・島久
6月2日～3日	新入生フレッシュマンキャンプ参加、体育会主催	
9日～15日	教証合宿・松田、玉井、重永、三田村	於：福井空港
23日	総合同立戦開会式参加、体育会主催	於：田辺校地
25日～7月1日	三整合宿・吉川、三田村	於：木曽川滑空場
7月17日	祇園祭参加 岩戸山	
22日	花火大会	於：出町柳鴨川
8月10日～12日	Ka-6E の計測、整備	於：田辺格納庫
26日～31日	霧ヶ峰山岳滑翔合宿参加・浅井、真沢	於：霧ヶ峰
18日～23日	同志社合宿 総飛行回数167回	於：木曽川滑空場

資格状況

自家用操縦士	松村康生(4年)、松田剛(4年)、玉井克典(3年)
三等航空整備士	山本康(4年)
認定ウインチマン	松田剛(4年)、玉井克典(3年)、重永歳繁(3年)、近藤玲(3年)